



直峰通信

令和3年8月20日(火)発行

8月上旬の猛暑から一気に10度以上も気温が下がったお盆を終えて、安塚ではセミがころなしか控えめに鳴いています。気づけば稲穂が実り始め、田の色が少しずつ変わりつつあります。夏は高校生にとっても、自分自身に実りをもたらすために、とても大切な季節です。この夏は新潟県でインターハイ(全国高校総合体育大会)が開かれ、全国各地から高校生が集まり、感染症予防に対処しながら、熱い戦いに挑んでおりました。安塚分校からも生徒3名と教員1名が競技役員としてインターハイに参加し、活躍してくれました。普段接する機会のない全国から集まった高校生と熱に満ちた時間と場所を共有し、自身の世界を少しは広げてくれたのではないかと思います。普段は少人数で自分のペースで学業に取り組み、行事に参加している安塚分校の生徒ですが、機会をとらえ、広い社会に触れる経験を増やしていきたいと考えております。この点でも、この夏休み期間は絶好の機会となります。



お盆明けの安塚分校バス停前 … 花の苗は安塚、船倉各町内会、分校PTAからいただきました

7月から8月にかけて、上越市内の施設や企業から御協力いただき、1,2年生が職場見学や企業体験(インターンシップ)を経験することができました。普通科の学校では数少ない実習の機会を提供していただいた施設や企業の方々に、御礼申し上げます。生徒の実りのために貴重な機会をいただきました。この実りが将来、地元還元できれば何よりだと感じます。

日頃より、保護者、地域の皆様方からの御支援に感謝申し上げます。今後とも御指導いただきますようお願い致します。

1年生企業見学 7月26日

午前中に安塚区の特別養護老人ホーム「あいれふ安塚」、そして午後からは「えちごトキめき鉄道」直江津運転センターに伺いました。普段は見ることのできない施設の見学、また実際のお仕事の様子を見ながらお話を伺う機会をいただきました。以下、生徒の感想です。

「あいれふの意気込みや目標に向けての思いが伝わりました。100室もある部屋やその一つ一つにあるトイレなど、入居者が快適に暮らせるようになっていて、いいと思いました。最先端技術により介護はどんどん進んでいけることがうれしくなりました。」(1年男子)

「えちごトキめき鉄道」さんに見学に行ってみて、想像よりも仕事が難しそうでした。大変そうではあったけれど、皆さん笑顔を絶やさず説明してくださって、高級な設備の電車の中にも入ることができて、貴重な体験ができました。」(1年女子)

貴重な機会をありがとうございました。



2年生ジュニアインターンシップ(企業体験)

昨年、企業見学を行えなかった2年生にとって、自身の進路選択を図るうえでも、とても大切な機会でした。今年も感染症が心配される中でしたが、それでも受け入れを認めていただいた計6社の施設と企業で、2年生が2～3日間実地体験を積まさせていただきました。

「言葉遣いとか、かなり気を配りました。仕事はやることをしっかり把握して、きびきび動こうと思いました。実際にお客さんと話すことはなかったけれど、大きな声でのあいさつや、しっかりとしたお辞儀など、すぐできるコツを教えていただいたので、取り組んでいきたいと思いました。」(2年男子)

「みなさん優しく教えてくださり、ありがたかったです。利用者さんのおしぼりの畳みかたや、目線を合わせて、しっかりかがんで話しかけたりすることなど、教えてもらいました。大変でしたが、自分のためになった経験でした。やはり、職場の方に対しても、利用者さんに対しても、あいさつが大切なんだと思いました。」(2年女子)

協力いただいた各施設、企業の方々、学びの夏をありがとうございました。

(訪問先)敬称略 … サトウ産業(株) 高助(合) あいれふ安塚 (株)サンコー
協業組合太陽自動車工業 環境サービス(株)郷土建設藤村組



地域の声を聞く会 7月28日

今年も町内会長様をはじめ、民生委員の方や近隣の中学校長様にも来校いただき、安塚分校への期待の言葉をかけていただきました。以下、その抜粋です。

- ・安塚高校の卒業生(同窓生)がいろいろな場で活躍されている。卒業後、市外県外へ出ていく生徒も多いが、いずれ戻ってきてくれたらいい。
- ・私自身も親も子どもも安塚高校の卒業生である。直峰通信で学校の様子を垣間見ることができ、紙面を通したつながりを保つことができている。生徒が選んでよかったと思える学校にしてほしい。
- ・学校がどのような様子か見に来ました。地域とのつながりをどう作っているか知りたい。
- ・小さな学校の長所は何か。…(小さな学校なので1時間ごとの授業においても、生徒一人一人に目を向け、声をかけることができる。教員も一人一人の生徒を把握できる。また、生徒はこれまで経験できなかった役職、委員会の長やリーダーなどになる機会が少人数ゆえに必然的に増え、経験値を増やすことができる点などですと回答)
- ・少しずつでも中学校との交流を進めていけたらいい。分校の卒業生でも、中学生に話をしてくれる機会などあったらよいと思う。
- ・中学校で見切れなかったところを、この少人数の高校では見てもらっているように思う。
- ・閉校に向けて、学校が少しでも活性化するために保護者間でのつながりを作ってみてはどうか。
- ・これから生徒数は少なくなるが、修学旅行や体育祭、文化祭など、生徒たちが自分たちで取り組めるようにしていったら、生徒にとっても充実した高校生活になるのではないか。

いただいた言葉を励みに、これからも教育活動に取り組んでまいります。御参加ありがとうございました。8月27日(金)第2学期始業式です。

新潟県立高田高等学校安塚分校

〔担当:教頭 沢田貴博〕

〒942-0411 上越市安塚区下方129番地

電話 025-592-2306

FAX 025-592-3541

HP <http://www.takada-h.nein.ed.jp/>

mail school@tadakayszk-h.nein.ed.jp